

2012/2/27

菊地（北大）

第2回巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくりタスクフォース議事録

日時：2012年2月22日（水） 10:00～12:30

場所：建築会館 305号会議室

出席者：福和、松村、有賀、塩原、久田、田辺、加藤、佐土原、牧、大月、
中島（電子会議）、酒井、菊地

配布資料：

- ・ 2-0：第2回巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくりタスクフォース
- ・ 2-1：第1回巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくりタスクフォース議事録（案）
- ・ 2-2：小委員会①過大外力に対する建築都市の性能（新性能設計）活動計画案
- ・ 2-3：東日本大震災調査復興支援本部 研究・提言部会・首都
- ・ 2-4：震災対応住宅・建築環境 WG 活動状況
- ・ 2-5：2013年時点で想定する都市計画分野の提言一範囲の事前検討についてー
- ・ 2-6：⑤巨大災害時の住の確保と生活再建
- ・ 2-7：2012年日本建築学会（東海）大会記念シンポジウム（市民向け）企画案
- ・ WG 設置申請書

<議事>

1. 自己紹介
2. 第2回タスクフォース議事内容の説明（資料 2-1）
3. 前回議事録（案）の説明（資料 2-1）
4. 塩原 WG（過大外力に対する建築と都市の性能）活動計画案（資料 2-2）
 - ・ 「現状分析」と「将来に向けて」、「荷重」と「設計のクライテリア」の 2×2 のマトリックスにて、活動計画案を説明。
 - ・ 委員の紹介、まだ依頼はしていない。
 - ・ 「想定外」という言葉を排除したい。構造設計者が果たすべき責任は何か？という究極の問いを考えたい。
 - ・ 建築や都市の機能はどう考えるか？→課題の洗い出しまで。
 - ・ WG の成果は、要求値を決めることではない。

5. 久田 WG（長周期地震動対策と建築物即時被災度評価）活動計画案（資料 2-3）
- ・第 1 回会議を 2 つの委員会（提言委員会、特別調査委員会）を合体して開催した。
 - ・WG 名には長周期地震動が入っているが、首都直下も対象とする。
 - ・最終成果の一つとして新宿西口地域の防災活動のような具体的な事例を提示したい。
 - ・建物単体は塩原 WG、エリアは久田 WG というすみ分け。ただし、建物単体でも高層マンションではエリアとして捉え方が必要。
 - ・東京が世界一危険な街であるというメッセージは発信したくない。リスクと防災対策をセットで情報発信すべきである。
6. 田辺 WG（建築・地域・都市におけるエネルギー需給の再考）活動計画案（資料 2-4）
- ・都市環境 WG、住宅・建築環境 WG の活動状況を報告。両 WG の成果を本 WG の成果に取り込みたい。
 - ・シンポジウム「東日本大震災に学ぶこれからの環境工学」（2012 年 3 月 12 日開催）の説明。「震災対応住宅・建築環境 WG」、「震災対応都市環境 WG」の活動途中経過を報告。
 - ・従来の質を上げるだけの視点から、震災後はどこまで質を下げられるかというインフラ回復状況に応じた非常時の環境メニューを提案したい。
 - ・エネルギー供給が例えば 80%、50%などとなった時にどのような環境設備的な対応が出来るのかを整理するとよい。スマートグリッド、スマートコミュニティ、蓄電などに関する項目も取り込んで欲しい。都市と田舎で対応が異なるはずであるがどのように考えるのか。窓が開く建築の価値などに関する議論があった。
7. 有賀 WG（復興と予防に資する減災都市設計・計画）活動計画案（資料 2-5）
- ・都市計画（委）「復興まちづくりと減災都市設計・計画研究提言 WG」での意見を紹介。
 - ・現段階では課題出しまでである。震災前から存在していた課題と震災で新たに出てきた課題があるが、WG では後者を重点的に扱いたい
 - ・復興の最適化レベルの設定を検討する。財政事情にも配慮して、身の丈にあったインフラ整備や復興計画が必要である。例えば、被災した商店街などは、被災前から衰退している場所もあった。
 - ・神話的な安全確保ではなく、リスクとの共生・リスクの受容に対応した都市計画を説明する。
 - ・非現実的なシミュレーションによる被害予測など、災害発生／被害想定インフレ化をチェックする。インフレ化した災害発生／被害想定は、対応不可能としてあきらめながら結局何もしないことになる。
8. 大月 WG（巨大災害時の住の確保と生活再建）活動計画案（資料 2-6）
- ・発災期→避難期→仮設期→復興期の連続的環境移行プロセスを考え、非常における建物

間連携型ハイブリッド型建築計画の在り方を考える。

- ・ 仮設住宅の根本的な見直しをしたい。みなし仮設住宅としての建築ストックの活用と孤立防止、仮設建築物に対する法整備の見直し。
- ・ 関東では仮設住宅の必要数に対する建築資材、土地の確保が絶対に不可能であり、震災後の住の確保には別のシナリオが必要→疎開しかない？（過去には、関東大震災、東京大空襲でも同じ状況であった）

9. 2012年日本建築学会大会記念シンポジウム企画案の説明（資料2-7）

- ・ 本シンポジウムも特別調査委員会の成果と位置づける。
- ・ 特別調査委員会委員である大月先生、加藤先生に講演を依頼する。

10. その他

- ・ 最終成果の確認：二次提言作成、叢書作成、大会でのPD・シンポジウム開催
- ・ 着地点は各WGで議論した後で決めたい。
- ・ 次回委員会までにWG設置申請書（配布済み）を提出する。
- ・ 次回から、本タスクフォースは特別調査委員会となる。
- ・ 各WGからもう1名程度、特別調査委員会の委員として追加してもよい。
- ・ 次回：第1回特別調査委員会

日時：2012年5月7日（月）17：00～

以上